

学校教育目標	進んで学ぶ 心豊か たくましく
目指す学校像	互いを認め、個性と良識を磨き合う学校 ～「Well-being (幸せ)を保障する教育」の実現～

重点目標	1 効果的なICT活用及び学校課題研究(小・中一貫教育)を推進による学びに向かう意欲の向上 2 一人ひとりに寄り添った発達支持的生徒指導と支援の充実 3 学校に携わる人々がエージェンシーを発揮した活動の推進 4 健康・安全教育の推進と中長期的な視点に立った教育環境の整備 5 職場におけるWell-being(幸せ)の向上とチャレンジを奨励する組織風土の醸成
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>【学びの質の向上に関する取組】</b> (現状) ○全国学調では実施教科全てにおいて、正答率が全国・県平均を上回り良好な結果である。 ○生徒同士の協働的で、主体的・対話的で深い学びにつなげられる授業の実践に取り組んでいる。 (課題) ○研究領域「学びの連続性を活かした真の学力の育成」について、昨年度の成果・課題を踏まえた、学びの連続性を活かす教育課程の編成・工夫の研究実践と、真の学力の育成	・9年間の学びの連続性を活かした学習指導の充実 ・教員の指導力の向上と授業改善による質の高い学びの充実	①「学びの連続性を活かした真の学力の育成」について関係小学校と連携して研究を進めるとともに、デジタル教科書やICT環境を活用した授業により、生徒の主体的に学び続ける意欲・態度を育成する。 ②教育データに基づく分析・指導を行う。 ①教育データの利活用を図り、授業の検証・改善を行う。 ②小・中での合同研修や授業参観、連携した授業の実践により、9年間を見通したカリキュラム案を作成する。	①学校評価(生徒)の主体的な学習に関する最も肯定的な回答が60%以上となったか。 ②各種調査結果に基づき、生徒自らが自分の学習に関する成果や課題を確認し、今後の学びに活かすことができたか。 ①各種調査結果に基づき、授業の検証・改善を行うことができたか。 ②9年間を見通して、各教科で「育成したい力」を検討し、小・中連携してカリキュラムマネジメントを行うことができたか。			
		・生徒一人ひとりに寄り添った発達支持的な生徒指導や教育相談の一層の充実	①温かい人的環境や言語環境を整備し、生徒の自己指導能力の育成を支える指導を行う。また、いじめ対策委員会やケース会議など、組織的な支援・指導体制を迅速に構築する。 ②スクールダッシュボード等、生徒の支援において効果的にICTを活用する。 ③スクールカウンセラーをはじめとする専門職や関係機関との連携を強化する。	①生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ②スクールダッシュボードを踏まえた支援やオンライン授業、個別の教材等による学習が行われ、適切に評価がされている。 ③スクールカウンセラー等の専門職や外部関係機関との連携が図られているか。			
3	<b>【地域とともにある学校づくりに関する取組】</b> (現状) ○生徒のボランティア活動により、学校・保護者・地域の協働的な活動が活発化するとともに、生徒の地域活動への参画が図られている。 (課題) ○生徒が地域活動や育成会、社会福祉協議会の行事に親しみをもつ機会や、活躍できる場の創出による生徒のエージェンシーの育成	・学校・家庭・地域の連携強化と、協働的な取組の充実 ・積極的な情報発信と、生徒のコミュニティ・スクールへの参画	①育成したい子どもの姿、資質・能力について共通理解を図り、学校・家庭・地域それぞれの立場から育成を図る手立てを検討し実施する。 ②コミュニティ・スクールの意義について教職員・家庭・地域が理解を深める。 ①学校からの情報発信のほか、関係機関からも学校の情報を積極的に発信してもらうよう働きかける。 ②ランチミーティングなど、生徒がコミュニティ・スクールに参画する機会を設定し、生徒の意見を踏まえた活動を実施していく。	①さいたま市コミュニティ・スクール成長モデルの活用が図られたか。熟議の結果、具体的な行動が行われたか。 ②校内研修や会議等で、教職員・保護者や地域への説明を行い理解が図られたか。 ①関係機関から、学校やコミュニティ・スクールに関する情報発信がなされたか。 ②コミュニティ・スクールに生徒が参画し意見を表明する機会が創出できたか。生徒の意見を反映させた取組が実施できたか。			
		・健康・安全教育と安全管理の推進 ・中長期的な視点を持った施設等への適切な対応	①熱中症予防及び生徒の事故やケガを減少させるための指導・管理を実践する。 ②全教育活動を通じた安全指導及び学校保健委員会の充実を図る。 ①安全点検の確実な実施及び適切な事後対応を遂行する。 ②管理職、事務職との定期ミーティングによる予算執行管理の徹底と、中長期的な視点を踏まえた施設整備を進める。	①学校評価(保護者)「安全」の最も肯定的な回答が20%以上となったか ②外部講師を招聘した学校保健委員会の実施等を通じて生徒の健康・安全な生活実践力を高めることができたか。 ①学校評価(保護者)「整備」に関する肯定的な回答が85%以上となったか。 ②今後の改修を見通し、適切な修繕を行うことができたか。			
5	<b>【教職員のキャリア形成に関する取組】</b> (現状) ○R6 学校評価の結果から、職場について、職員の経験や役割、所属等を生かしたOJTが進められ、よい環境にあることがわかった。 ○学校課題研究を中心に、研修が計画的に実施されている。 (課題) ○健康で安心してチャレンジすることができる、職場環境づくり・職場におけるWell-being(幸せ)の向上	・教職員がレジリエンスを発揮し健康で能力を最大限に発揮できる環境づくり	①学校課題研究に係る校内研修並びに指導力向上に向けて互いに授業を参観し合う機会を設定する。 ②共通理解を図り教職員が丸丸となって取り組むための目的の共有と情報の共有を行う。 ③ICTの効果的な活用等による教育活動の実施やデジタルツールの活用等を行う。 ④衛生委員会の実施(月1回)及び在校時間管理の徹底やノー残業に関する取組を実践する。	①学校課題研究の授業の実践、研修を通し、生徒一人ひとりの学習進度や習得状況、興味関心に応じた学びの場や機会の創出ができたか。 ②教職員の研修計画が予定通りに進められたか。 ③教職員の同僚性、協働性を高めることができたか。 ④働き方改革が推進され、時間該当在校時間の減少や負担感の軽減が図られたか。			

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校運営協議会からの意見・要望・評価等